

3 研究のまとめ

(1) 研究の成果と課題

（ ○成果、●課題 ）

ア 授業改善の柱1 単元を通して生徒が自律的に学習を進めることができる学習課題の設定

- 学習課題を指導事項、思考操作、言語活動の3フレーズで示す考え方を取り入れたことで、単元を構想する際に、指導事項の焦点化を図り、生徒の活動を具体的にイメージすることができた。また、単元の導入で、身に付けさせたい力、単元のゴールの姿、学習を成立させるための考え方を生徒に示すことで、生徒は見通しをもち学習を進めることができました。
- 自分の考えを書いて終わるのではなく、書いたものを再考し、自分の考えを再構築したり、人の意見を聞いて思考を深めたりすることができる課題を設定しました。また、振り返りを言語活動化することによって、生徒は単元を通して学んだことを自覚し、学習内容の定着につなげることができました。
- 指導事項、教材、言語活動が効果的につながることを意識して単元を構想しましたが、生徒が興味・関心をもって取り組むことができる言語活動を設定することや、指導事項を指導することに適した教材を選ぶことなど、課題として見えてきたこともありました。国語科で育成する資質・能力を育てるために、生活の中にある生徒に身近な資料や話題を言語活動として取り上げ、生徒にとって学ぶ価値のある単元づくりを行う必要があると考えます。

イ 授業改善の柱2 生徒の思考に沿ったワークシートの工夫

- 思考ツールを活用したワークシートを用いたことで、文章を分析的に読んで整理した内容や、集めた情報を基にした自分の考えを、思考に沿って可視化することができました。また、生徒は、思考ツールを用い、同じパターンで文章を読むことで、読みの方法を獲得することができました。
- 複数の教材を読む際に、思考ツールを活用したワークシートを段階的に繰り返し使うことで、学習の見通しをもたせることにつながりました。また、段階的に学習活動に位置付けることで、学習のモデルとして示したり、既習事項の確認をしたりすることもできました。これらの手立てによって、文章を読むことを苦手としている生徒に学習の方法を理解させ、安心感を与えて学習に取り組ませることができました。
- 思考ツールを用いたワークシートを作成する際には、授業での交流の場面や板書で再現することを考慮する必要があります。また、教師自身が模擬学習を行い、思考の流れに沿って学習を進めることができるか、単元で行う言語活動を実現するために効果的なものなのかを確認することも大切なことです。
- 思考ツールを使うことが生徒に定着すると大変有効なツールとなりますが、使うことに慣れ、使いこなせるようになるには時間が掛かります。そこで、使い方の例を示したり、既習教材や生活の中の身近な文章等で練習させたりするなどの段階的な手立てが必要であると考えます。

ウ 今後の研究に向けて

新学習指導要領では、各教科において育成を目指す資質・能力が3つの柱（①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等）に基づき整理されました。国語科において育成を目指す資質・能力の向上を図るために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることが求められています。そこで、本研究で取り組んだ授業改善策の考え方を基に、更なる授業改善に取り組んでいきたいと考えています。

2年間の研究の過程で、本研究のアドバイザーである佐賀大学教育学部の達富洋二教授、また、本センター中学校国語科Ⅱ講座（H28）の講師としてお招きした港区立赤坂中学校の甲斐利恵子先生から、生徒が自律的に学習を創造する単元づくりの考え方を学びました。そこには、生徒が自らの問いをもち、単元を通じた学習の中で学びに浸っている姿がありました。「学ぶ価値のある言語活動」「生徒が問いをもつことができる学習課題」「学習の自覚化と一般化を図る見通しと振り返り」のより一層の充実を図るとともに、新学習指導要領で示されている「言葉による見方・考え方」を働かせて、自分の思いや考えを形成し深めていくために語彙を豊かにする指導の充実にも努めていく必要がありますと考えています。また、生徒の主体的な学びを促すための単元を通じた評価の在り方を探っていきたいと考えています。

(2) 終わりに

本研究を進めるに当たり、研究1年次は、小城市立小城中学校、嬉野市立嬉野中学校において授業改善策を取り入れた検証授業を行いました。さらに、研究2年次は、佐賀市立鍋島中学校、白石町立有明中学校において公開授業研究会を開催しました。公開授業研究会では、貴重な御意見、御感想を頂き、研究の成果と課題を明らかにすることができました。御参会いただきました先生方に感謝申し上げます。本研究の成果が生徒の学びに還元され、更なる授業改善につながれば幸いです。

最後に、本研究委員会のアドバイザーとして御指導、御助言を頂きました佐賀大学達富洋二教授、また、公開授業研究会会場校の皆様に深く感謝申し上げます。

達富教授の「学びどき・教えどき」

中学校国語

授業改善にむけて、佐賀大学教育学部
達富 洋二 教授 に御助言を頂きました。

① 学習課題・学習計画

② 言語活動の設定

③ ふみ込んだ課題

④ 教師の模擬学習（評価規準の設定）

⑤ ふりかえり

御助言ありがとうございました。

